

# 臨地実習指導者の役割に関する検討

名古屋大学大学院医学系研究科

看護学専攻

山 田 聡 子

平成 24 年度学位申請論文

臨地実習指導者の役割に関する検討

名古屋大学大学院医学系研究科

看護学専攻

(指導：太田 勝正 教授)

山 田 聡 子

## 【目次】

I. 序論.....	1
II. 文献レビュー .....	2
III. 研究目的.....	3
IV. 研究デザイン .....	3
V. 臨地実習指導者役割の項目抽出と検討 .....	4
1. 文献による臨地実習指導者役割の項目抽出と検討 .....	4
2. フォーカスグループインタビューによる実習指導者役割の項目抽出と検討.....	4
3. プレテストによる調査票の検討.....	5
4. 看護教員が考える臨地実習指導者の役割（パイロット調査） .....	6
VI. デルファイ法による臨地実習指導者役割の明確化と役割を果たすための教員の支援に関する検討 .....	7
VII. 考察.....	14
1. 実習指導者に期待される不可欠な役割 .....	15
2. 状況の変化と実習指導者に期待される中核的な役割.....	17
3. 教員による実習指導者への支援.....	17
VIII. 研究の限界と今後の課題.....	18
IX. 看護教育への示唆 .....	18
X. 結論.....	19
謝辞.....	19
文献リスト .....	20
図表.....	23

## 資料

1. Nursing & Health Sciences, 掲載予定論文 (Accepted 23 January, 2012)  
Essential roles of clinical nurse instructors in Japan: A Delphi study.
2. 日本看護学教育学会誌, Vol. 20, No. 2, 1-11, 2010. (掲載済み)  
看護教員が期待する臨地実習指導者の役割  
-フォーカスグループインタビューに基づく検討-
3. 調査票関連資料一式

## I. 序論

臨地実習は看護実践現場のダイナミクスの中で知識と技術を統合させる貴重な学習の機会であり、看護学教育に不可欠な教育方法である。その臨地実習において臨地実習指導者（以下、実習指導者）は、臨床現場での学生の学びを支援する存在であると共に、患者の療養プロセス、学生の学習プロセスと看護スタッフの業務とを連結する欠かせない存在である。

実習指導者は、「看護師等養成所の運営に関する指導要領」の第7-1-(1)において「実習指導者となることのできる者は、担当する科目について相当の学識経験を有し、かつ、原則として必要な研修を受けた者であること」と規定されている。この規定を根拠に、厚生労働省もしくは都道府県が主催する約240時間の実習指導者講習会にて実習指導者は養成されている。講習会を修了した後、「実習生が実習する看護単位には、学生の指導を担当できる実習指導者が2人以上配置されていることが望ましい（同指導要領の第7-4-(2)オ）」を受けて各看護単位へ配置されているが、その配置は診療報酬による病院収入とは関係を持たず、人員配置予算の根拠が無い。そのため、一般的には実習指導の専任者として確保されていることは少ない。また、全ての実習受け入れ病院が実習指導者に講習会を受講させているわけではない。看護スタッフ数の余裕の無さから、約240時間の講習会に看護職員を派遣することが困難な実習病院も一部にある。その場合には、実習病院内の院内教育による短時間の研修しか受けていない者が実習指導者となるケースもある。

医療制度改革への対応、特に、平均在院日数が短縮化された結果、増加した重症患者への看護が主体となった繁忙な医療現場で、実習指導者は一看護要員としての役割と実習指導者としての役割の両方を担うことを求められる。実習指導を担当する期間中は、所属施設や配置病棟の状況に応じて、学生指導専任となる場合とスタッフ業務との兼任となる場合があり、状況に応じた実習指導者役割が求められる。

さらに、同時に複数の看護師養成機関からの実習を引き受けている病院の場合には、各養成機関の教育方針に基づいて計画される専門領域実習それぞれの異なった実習目的と実習内容に沿った役割が求められ、そして、養成機関ごとに異なった教員指導体制へ対応しなければならない。このような状況から、先行研究で示されているように、実習指導者は指導の負担を強く感じ、指導上の困難が生じやすい<sup>1)-6)</sup>。

このように、実習指導者を取りまく現在の状況が複雑な中、実習による教育効果を保つためには、実習指導者がどのような役割を担うべきかについて明確に示すことが肝要になると考える。しかしながら、保健師助産師看護師養成学校指定規則や指導要領等には、実習指導者の役割は明記されていない。平成6年に厚生省（当時）健康政策局長から都道府県知事へ通知された「都道府県保健師助産師看護師実習指導者講習会実施要綱」において、科目「実

習指導の原理」の教育目標に、「実習指導の基本と実習指導者のあり方等について理解する」と示されており、その教育内容は①実習の意義、②実習指導者の役割とされている。しかし、通知ではその詳細な教育内容までは規定されていない。

「都道府県保健婦助産婦看護婦実習指導者講習会実施要綱」に則って開催されている実習指導者養成講習会のカリキュラムについて、5 県の教育計画に関する資料を入手できた。その資料を確認した結果、5 県全てにおいて厚生労働省からの通知に則り科目名「実習指導の原理（15 時間）」の中で「実習指導者の役割」を教授すると示されていたが、具体的な教授内容の表記や説明は無かった。したがって、実習指導者講習会にて教授される実習指導者の役割は、実際に講習会を担当するそれぞれの講師の考え方や経験に基づいた内容になっていると推察される。

このように、実習指導者の役割についての教授内容にはコンセンサスが無い状況から、講習会の科目担当者によって差があるのが現状だと考えられ、実習指導者役割の明確化が必要だと考える。

## II. 文献レビュー

研究課題に関連する国内外の文献を検索し、実習指導者の役割に関する研究成果を確認した。諸外国では、臨床における看護教育の方法として、実習を行う臨床現場に学生と共に同行する教員が実習指導や評価を行う伝統的な方法<sup>7)-9)</sup>や、臨床機関と大学機関との提携に基づくパートナーモデル<sup>7)-9)</sup>、熟練した看護師が1対1で学生と関わるプリセプターモデル<sup>7)8)10)-13)</sup>、医療機関と教育機関の両方に雇用され学生指導を担当する Lecturer Practitioner<sup>14)</sup>などが開発され、それぞれの特色が検討されている。諸外国においては、伝統的な方法からプリセプターによる実習指導に移行していると報告されている<sup>7)8)</sup>。しかし、プリセプターによる実習指導は、学生の臨床実践能力の向上や社会化を促進する利点がある一方で、複雑で予測が難しい臨床現場において、患者の安全確保と学生指導の両方を担うプリセプターの立場となるスタッフナースのストレスや負担が問題視されている<sup>8)15)16)</sup>。

日本では、実習病棟に配属されている看護師の中から選定された1名が実習指導者の立場となり、病棟に配置された5-6人程度の学生グループを教員と連携しながら指導する方法が一般的であり、諸外国とは異なった我が国独特の実習指導の方法がとられている。日本においても、プリセプター方法による実習指導を試行した成果報告<sup>17)</sup>はあるが、実習指導方法の開発や検討に関する報告は少ない。

日本における実習指導者に関する研究成果を概観すると、実習指導に対する負担感や困難感に関連する内容<sup>1)-5)</sup>が多く、実習指導者が困難を抱えながら指導者役割を担っている現状が

報告されている。また、実習指導者の指導行動に関する調査結果<sup>18)-20)</sup>や、国外で開発された実習指導者の行動・態度の効果を測定する尺度<sup>21)</sup>を引用した調査結果<sup>22)</sup>、特定の施設に限定した教員と実習指導者が互いに期待する役割に関する調査結果<sup>6)</sup>など、実習指導者の指導行動や役割に関係する調査結果が複数報告されているが、その調査内容は研究者の考えによってそれぞれに設定されており多岐に渡っている。実習指導者に向けた書籍も複数出版されているが、その中で示されている実習指導者役割は著者らの独自の考えに基づいているため、抽象度やその範囲には大きな幅がある<sup>23)-25)</sup>。つまり、わが国においては、コンセンサスの得られた実習指導者の役割は見当たらず、看護基礎教育においてどのような役割が実習指導者に期待されているのかは曖昧である。

以上から、実習指導者が困難を抱えながら役割を担っている現状が示されている一方で、実習指導者の役割そのものの再検討につながる系統的な研究成果の蓄積には至っていないことが推察された。

役割とは、「集団や社会によって期待され、また、行為者の認識・評価・解釈によって取得される行動様式<sup>26)</sup>」とされている(図1)。これを実習指導者にあてはめた場合、前述のように期待される役割が曖昧であれば、指導者自身の認識・評価・解釈に基づく行動様式、すなわち役割が看護基礎教育として期待される役割に叶っているのかが不確かになる(図2)。現況のように実習指導者をとりまく環境が複雑で、かつ、担うべき役割が曖昧な状況で学生への実習指導を続けることは、実習指導者の負担感や困難感の増加につながり、臨地実習そのものの意義や効果に影響を与える可能性がある。しかし、実習病院の人員を増員することや養成機関ごとの実習計画を統一することは困難であり、今後も様々な状況に応じた役割が指導者に求められることになるだろう。したがって、実習における教育効果を保証するためには実習指導者が担う役割を明らかにする必要があると考える。そのために、まず、看護基礎教育における実習指導者に対する役割期待を明らかにすることが急務だと考える。

### Ⅲ. 研究目的

本研究の目的は、デルファイ法を用いて実習指導者に対する役割期待を明らかにすることである。加えて、実習を担当する教員による実習指導者への支援についても検討する。

### Ⅳ. 研究デザイン

本研究に先立ち、日本における臨地実習指導者に関する背景や現状、諸外国における臨地実習指導の現状把握、そして文献検討と概念の整理を行った結果、実習指導者の役割を明確

化する必要性和意義を確認した。

これをふまえ、以下に示すデザインで研究を行った。

#### 1. 臨地実習指導者役割の項目抽出と検討

1) 文献による臨地実習指導者役割の項目抽出と検討

2) フォーカスグループインタビューによる臨地実習指導者役割の項目抽出と検討

3) プレテストによる調査票の検討

4) 看護教員が考える臨地実習指導者の役割（パイロット調査）

#### 2. デルファイ法による実習指導者役割の明確化と役割を果たすための教員の支援に関する検討

「1. 臨地実習指導者役割の項目抽出と検討」については概要を、本調査である「2. デルファイ法による実習指導者役割の明確化と役割を果たすための教員の支援に関する検討」については調査結果を詳細に示す。

### V. 臨地実習指導者役割の項目抽出と検討

#### 1. 文献による臨地実習指導者役割の項目抽出と検討

関連文献から実習指導者の役割を抽出し整理・分類することを目的に、医学中央雑誌 Web および国立国会図書館蔵書検索システム（NDL-OPAC）による文献検索と関連書籍の選定を行った。文献および書籍から、実習指導者の役割を示す記述内容と行動を示す内容をすべて抽出し、類似性により整理と分類を行った。この分類作業は複数の研究者によって検討を繰り返し妥当性の確保に努めた。

その結果、医学中央雑誌での検索結果からテーマおよび抄録をもとに 64 件の文献を選定し、その内容からさらに「役割」に関連する 17 件の論文に絞り込んだ。また、NDL-OPAC から書籍 7 冊を選定した。これらの文献・書籍から臨地実習指導者の役割を示す内容をすべて抽出した結果、のべ 209 項目となった。この 209 項目を整理・分類した結果、5 カテゴリーからなる 56 項目の臨地実習指導者の役割を示す項目を抽出した。

#### 2. フォーカスグループインタビューによる実習指導者役割の項目抽出と検討

実習指導を担っている看護教員の意見を基に、関連文献にはみられない臨地実習指導者の役割を示す項目の抽出を目的としてフォーカスグループインタビューを行った。

対象は、基礎看護学または成人看護学実習の指導を担当する教員経験 1 年以上の看護教員とした。A 県内看護系大学および A 市内看護専門学校に調査協力を依頼し、承諾が得られた



施設から対象条件に適合する 1 名の紹介を受け、その教員へ個別に調査への協力を文書で依頼し、8 名から文書による同意を得た。

調査は、平成 21 年 4 月に名古屋大学大幸キャンパス内で 2 回に分けて実施した。第 1 回調査は看護系大学教員 4 名を対象に、第 2 回調査は看護専門学校教員 4 名を対象に実施した。インタビューでは、「臨地実習指導者に期待する役割」をテーマに自由に話し合ってもらった。各グループの所要時間は 75 - 90 分であった。参加者は匿名とし話し合い内容の守秘を依頼した。また許可を得て話し合いを録音した。

本調査にあたっては、名古屋大学医学部倫理委員会保健学部会の承認を得た上で（承認番号 8-168）、プライバシーの保護および倫理的配慮について文書および口頭にて説明した後に実施した。

インタビュー結果から逐語録を作成し、逐語録から実習指導者の役割が語られた内容全てを抽出した。文献から抽出した役割項目と対比しながら役割に関わる項目が網羅できるように整理した結果、31 項目の実習指導者役割が抽出され、文献から抽出された実習指導者の役割を示す 56 項目と比較した結果、新たに 8 項目の役割が抽出された。この 8 項目を 56 項目と合わせて再度整理・分類を行った結果、【実習指導の準備】【実習の受け入れ準備】【学生指導】【病棟スタッフとの連携】【教員との連携】の 5 カテゴリーの合計 58 項目の役割を示す項目となった（表 1 参照）。

### 3. プレテストによる調査票の検討

上記の文献検討およびフォーカスグループインタビュー結果をもとに検討した実習指導者役割を示す項目から成る調査票について、表現および選択肢の適切性を検討することを目的に、半構成的面接法によるプレテストを実施した。

対象はフォーカスグループインタビューの対象者と同じ条件の看護教員とし、A 県内看護系大学および A 市内看護専門学校に対してこのプレテストへの参加者の紹介を依頼した。この依頼は、フォーカスグループインタビューへの参加者の紹介依頼と同時に行った。紹介を受けた教員に個別に依頼文を送付し 6 名から同意を得た。ただし、同意が得られた 6 名のうち 1 名は進学コースを担う教員であったため、今回は対象から除き、5 名の教員を対象とした（看護系大学教員 3 名・看護専門学校教員 2 名）。平成 21 年 5～6 月に対象が指定する場所に研究者が出向き、調査項目のわかりやすさや回答のしやすさについて、聞き取りにより確認した。

なお、本調査にあたっては名古屋大学医学部倫理委員会保健学部会の承認を得た上で（承

認番号 8-168), プライバシーの保護および倫理的配慮について文書および口頭にて説明した後実施した。

面接時に聴取した各意見を検討し, 調査項目の表現および選択肢について見直しを行った結果, 大幅な修正の必要はなかったが, 調査票の属性や指導者の役割を示す項目の表現について部分的に修正を行った。

#### 4. 看護教員が考える臨地実習指導者の役割 (パイロット調査)

臨地実習指導に実際に携わっている看護教員が, 実習指導者のどのような役割を不可欠だと考え, そして重要だと考えているのかを把握することと共に, 調査票に示す実習指導者の役割項目の構成および不適切項目や選択肢の確認を行い, その後のデルファイ調査にむけての検討に資することを目的として郵送法による自記式質問紙調査を行った。

対象は全国の看護系大学および看護専門学校に所属し, 臨床経験が3年以上で, かつ, 教員として1年以上の経験があり, 基礎看護学あるいは成人看護学領域を専門とする実習指導に直接携わる教員とした。全国の看護系大学 168 校と看護専門学校 (3 年課程・統合カリキュラム校) 492 校から無作為に抽出された学校に, 条件を満たす対象者数を尋ねると共に調査票配布への協力について依頼した。

調査は, 平成 21 年 7~8 月に郵送法による質問紙調査を実施した。前項のプレテストにて見直した調査票を用いて, 属性および実習指導者の役割を示す項目について質問した。この実習指導者の役割を示す項目については, a. 役割として不可欠だと考えるか (不可欠である~無くて良い, の 3 肢択一), b. 役割としてどの程度重要だと考えるか (とても重要~全く重要でない, の 5 肢択一) の 2 つの視点から尋ねた。なお, 本調査にあたっては, 名古屋大学医学部倫理委員会保健学部会の承認を得た上で (承認番号 9-144), プライバシーの保護および倫理的配慮について文書にて説明した後実施した。

分析には PASW Statistics ver. 18 を用いて, 記述統計, および, 不可欠だと考えるかと重要だと考えるかの 2 つの回答について相関を求めた。

調査の結果, 115 校 (専門学校 80 校, 大学 35 校) から調査協力が得られ, 774 名に調査を依頼し 428 件の回答を得た (回収率 55.3%)。420 件が有効回答であり (有効回答率 98.1%), 所属の内訳は大学 101 名, 専門学校 316 名, 不明 3 名であった。提示した実習指導者の役割を示す 58 項目中 42 項目について, 全体の 8 割以上の者が, とても重要, あるいは, ある程度重要と回答した。ある程度重要・とても重要という回答が 5 割以下となったのは 2 項目のみであった。不可欠だと考えるかについての選択肢でも同様の結果がみられた。どの程度重要だと考えるかと, どの程度不可欠だと考えるかの回答には, 全項目で有意な相関が認めら

れた ( $r=0.314\sim 0.819$ ,  $p<0.01$ ).

なお、因子分析(主因子法, プロマックス回転)を行った結果, 【学生の学習意欲への支援】, 【学生の技術実践への支援】, 【教員・病棟スタッフとの連携】, 【実習指導の準備】, 【成績評価】の5因子が抽出された。これは, 前述の文献検討やインタビューの結果に基づいて検討した実習指導者の役割の構造と, 特に大きな違いが無いことを確認した。

以上, 看護教員は提示した58項目のほとんどを実習指導者の役割として, 重要あるいは不可欠だと認識しており, そして, どの程度重要だと考えるかと, 不可欠だと考えるかについての回答に強い相関が認められた。この結果から, デルファイ調査では実習指導者の役割を示す項目としては58項目全てについて, そして, そのとらえ方としては, 不可欠かどうかという視点から選択肢を構成することとした。

## VI. デルファイ法による臨地実習指導者役割の明確化と役割を果たすための教員の支援に関する検討

### 1. 目的

デルファイ法を用いて実習指導者の不可欠な役割を抽出することで, 実習指導者に対する役割期待を明らかにすることを目的とした。加えて, 教員による実習指導者の支援についても検討した。

### 2. 方法

デルファイ法は, 特定の課題に関する判断や見解を明らかにするために有益な方法だとされている<sup>27)28)</sup>。今回, 関連する文献で多様に示されている幅広い実習指導者の役割, そして, 人々が様々に認識する実習指導者の役割について, 専門家のコンセンサスを得るためにデルファイ法を用いた。

#### 1) 対象と抽出方法

デルファイ法においては, 専門家パネルの設定と選定が結果の信頼性を確保するために重要となる<sup>27)28)</sup>。本調査では, 臨地実習指導に関する専門家として, 以下のいずれかに該当する者を対象とした。

##### a. 看護系大学にて看護教育学の研究・教育を担当している教員

対象は, 看護系大学における看護教育学領域に所属する教員, および看護系大学学士課程または修士・博士課程において看護教育学関連科目を担当する教員である。看護基礎教育における臨地実習の在り方や実習指導者の役割に関する専門的な意見が得られると考える本調査対象とした。

対象の抽出は、日本看護系大学協議会・日本私立看護系大学協議会に登録する大学のホームページに掲載されている情報から行った。61名の対象を抽出し、文書にて調査への協力を依頼した。

b. 臨地実習指導者講習会での実習指導関連科目の講師

対象は、実習指導者講習会において、実習指導者の役割を教授する科目の講師および実習指導方法に関する科目の講師とした。講習会において教授している実習指導者の役割に基づいた意見が得られると考えて本調査対象とした。

対象の抽出は、講習会を主催あるいは実施している都道府県、厚生労働省地方局、独立行政法人国立病院機構、政令市に調査の趣旨および調査への協力を依頼する文書を送付し、関連科目担当者の紹介または調査票の転送を依頼した。51名に調査を依頼した。

c. 臨地実習指導者に関する研究の原著論文の筆頭著者および書籍の著者

対象は、実習指導者に関する研究論文の筆頭著者および実習指導者向けの実習指導方法に関する書籍の著者とした。研究成果または書籍執筆の過程で得られる実習指導に関する意見が得られると考えて本調査対象とした。

対象の抽出は、医学中央雑誌 Web にて過去 5 年間の関連論文を検索し、筆頭著者に文書にて調査への協力を依頼した。書籍は国立国会図書館 NDL-OPAC にて検索し、在宅領域や母性看護学領域などの特定領域に限定した図書を除外した書籍のうち、著書から連絡先が把握できた者を抽出した。8名の対象を抽出し文書にて調査への協力を依頼した。

2) 調査時期

平成 21 年 11 月～平成 22 年 3 月

3) 倫理的配慮

調査の依頼と実施に当たっては、名古屋大学医学部倫理委員会保健学部会の承認を得た上で（承認番号9-159）、プライバシーの保護および倫理的配慮について文書にて説明した後に実施した。

4) 調査方法・内容

3回のデルファイ法に基づく郵送法による質問紙調査を行った。調査内容は、【実習指導の準備】【実習の受け入れ準備】【学生指導】【病棟スタッフとの連携】【教員との連携】の5カテゴリーで構成される58項目（不可欠である・どちらともいえない・無くてもよい、の3択）の実習指導者の役割を示す項目とした。この実習指導者の役割を示す項目は、本研究における文献検討およびフォーカスグループインタビューによる項目の抽出と整理・分類、そしてプレテストとパイロット調査を経て設定した。

デルファイ法による調査結果の適用可能性を高めるためには、単なる繰り返し調査に留まらず、様々な手法の組み合わせや追加調査の必要性が指摘されている<sup>29)</sup>。今回は、3ラウンドの基本的なデルファイ法に加えて、その回答を選択した理由についての質問や、状況が異なる時に実習指導者への役割期待にどのような変化が生じるかの確認、そして、実習指導者が役割を果たすための教員の支援に関する質問を順次加えて行った。以下に各ラウンドでの調査内容を示す。

a. 第1ラウンド

調査内容は、属性および、前述の経過を経て設定した実習指導者の役割を示す58項目（不可欠だと考えるかの3択）とした。調査票には、臨地実習に関わる教員の意見として420名の看護教員を対象としたパイロット調査の結果を示した。臨地実習の実務を担っている看護教員の認識を参考にした上での回答を求めることで、現状を加味した専門家としての意見を得ることを意図した。第1ラウンドは、調査票の返送を持って調査協力に同意が得られたとみなすこととした。第2ラウンドへの参加については、書面での同意の確認を得た。

b. 第2ラウンド

第1ラウンドと同じ実習指導者の役割を示す項目についての質問と共に、第1ラウンドの結果を示した。また、この第2ラウンドで、どちらともいえない、あるいは、無くてもよい、と回答した理由を質問した。これは、専門家が実習指導者の役割として不可欠だと考えない理由を把握し考察に資することを意図した。

理由をたずねた項目は、第1ラウンドにおいて同意率が低かった（60%未満）12項目に限定した。

なお、第2ラウンド以降は、発送・返信確認および第1ラウンドで調査した属性と連結するための識別番号を付して郵送した。識別番号を付ける事とその目的については、全てのラウンド時に文書にて対象に説明した。

c. 第3ラウンド

第1・第2ラウンドと同じ実習指導者の役割を示す項目についての質問と共に、第2ラウンドの結果を示した。また、実習指導者に役割を果たす余裕が無くなった状況を想定し、そのような状況でも実習指導者としての役割が不可欠かどうかについての質問を追加した。この質問を追加することで、回答者がどのような状況で、不可欠であると考えているのか、すなわち、状況によって実習指導者に期待する役割に変化が生じるかを確認することを意図した。さらに、実習指導者が役割を果たすため、教員としてどのよ

うに支援することが重要だと考えるかについても質問を追加した。

#### 5)分析

実習指導者の役割を示す項目について、不可欠である・どちらともいえない・無くてもよい、という三択択一回答のうち、不可欠である、と回答した者が80%以上となった場合をコンセンサスが得られたこととした。追加質問の結果は単純集計を行い、また、自由記述は内容の類似性に基づいて分類・整理した。

### 3. 結果

3 ラウンドのデルファイ調査の結果およびデルファイ調査実施時に追加質問を行った結果を以下に述べる。

#### 1)参加者の背景

120名に調査を依頼し、第1ラウンドでは67名（回収率55.8%）が調査に参加した。第1ラウンドに参加した67名のうち64名から第2ラウンドに参加する同意を得た。第2ラウンドでは、調査票を発送した64名のうち55名（回収率85.9%）が調査に参加し、52名から第3ラウンドに参加する同意を得た。第3ラウンドでは、調査票を発送した52名のうち48名（回収率92.3%）が調査に参加した。最終的に48名が第3ラウンドまでの全てに参加した。表2に第1ラウンドの参加者背景および、第3ラウンドの参加者つまり全ラウンド参加者の背景を示す。なお、第1ラウンドの参加者と第3ラウンドの参加者の背景を比較した結果、有意な差は無かった。

以下にコンセンサスを得るに至った第3ラウンド参加者の背景を概説する。参加者全員が女性で、平均年齢が50.9歳であった。看護系大学に所属している者が50.0%、看護専門学校が35.4%と、教育機関に所属している者が大多数であり、教員年数の平均は17.5年であった。大学院修了者は68.8%であった。参加者全員が教員としての実習指導経験があり、医療機関に所属していた時に臨地実習指導者として学生を指導した経験がある者が6割以上であった。臨地実習指導者講習会を受講したことがある者は2割以下であった。

また、看護系大学にて看護教育学の研究・教育を担当している教員が11名、臨地実習指導者講習会での実習指導関連科目の講師が32名、臨地実習指導者に関する研究の原著論文の筆頭著者および書籍の著者5名が本調査に参加した。

#### 2)臨地実習指導者の不可欠な役割

今回提示した臨地実習指導者の役割を示す58項目のうち、31項目について、不可欠であ

る、どちらともいえない、無くてもよい、との選択肢から、不可欠であると回答した者が80%以上であった。その31項目のうち、「実習目的・目標や進め方を確認しておく」、「実習目的に適した患者を選定する/しておく」、「学生受け持ち患者の安全・安楽を確保する」、「実習指導方針について確認する」、「実習における自分と教員の役割について確認・調整する」、「実習調整会議（学校一病院）に参加する」の6項目は、回答者全員が不可欠であると回答した。

以下にカテゴリー別の結果を述べる（表3）。なお、以下に示す結果は主として第3ラウンドの結果について示しており、必要に応じて追加質問の結果を併せて示している。

#### (1) 実習指導の準備

実習指導の準備は、実習指導を行うために指導者自身が行うものであり9項目から成る。その9項目の中で、参加者の80%以上が不可欠であると回答したのは、「実習目的・目標や進め方を確認しておく」、「実習目的に適した患者を選定する/しておく」、「患者に実習協力への説明を行い同意を得る/得ておく」、「学生に実施させるべき技術項目を確認しておく」の4項目であった。このうち、「実習目的・目標や進め方を確認しておく」は第1ラウンドから第3ラウンドまで全て、回答者全員が不可欠であると回答した。

一方で、不可欠であるという回答が80%未満になったのは5項目であった。「学年毎の受け入れ学生の特徴を把握しておく」については、不可欠であると回答した者が29.2%、「受け入れ病棟として、実習指導案を立案しておく」は39.6%であった。

これら2つの項目については、不可欠であると回答しなかった理由を第2ラウンド時に質問した。その結果、表4に示すように、「学年毎の受け入れ学生の特徴を把握しておく」は、実習指導者に期待したいが現実的に難しいからとの回答が52.0%、実習指導者がその役割を果たさなくても実習に支障が無いからとの回答が48.0%であった。「受け入れ病棟として実習指導案を立案しておく」は、実習指導者に期待したいが現実的に難しいからとの回答が46.4%、教員の役割だからとの回答が32.1%、実習に支障が無いからとの回答が21.4%であった。

#### (2) 実習の受け入れ準備

実習の受け入れ準備は、実習を受け入れるための環境整備に関するものであり、6項目から成る。その6項目の中で、参加者の80%以上が不可欠であると回答したのは、「学生の記録場所やカンファレンス場所を確保する」、「学生を受け入れる病棟の雰囲気作り」、「学生が使用する物品を確認・整備する」の3項目であった。

一方で、不可欠であるという回答が80%未満になったのは、「実習期間中、指導に専念できる勤務体制・業務内容を調整しておく」、「病棟の業務基準・手順・看護記録類を整えておく」、「病棟内のケア技術を統一・調整する」の3項目であった。

「病棟の業務基準・手順・看護記録類を整えておく」と「病棟内のケア技術を統一・調整する」については、不可欠であると回答しなかった理由を第2ラウンド時に質問した。その結果、表4に示すように「病棟の業務基準・手順・看護記録類を整えておく」は、病棟管理者の役割だからとの回答が47.6%、実習指導者がその役割を果たさなくても実習に支障が無いからとの回答が42.9%であった。「病棟内のケア技術を統一・調整する」は、実習指導者がその役割を果たさなくても実習に支障が無いからとの回答が44.4%、病棟管理者の役割だからとの回答が30.6%、実習指導者に期待したいが現実的に難しいからとの回答が25.0%であった。

### (3) 学生指導

学生指導は、学生がケアを実施する過程や学生との関わり方など直接的な学生指導に関するものであり26項目から成る。その26項目について、参加者の80%以上が不可欠であると回答したのは14項目であった。なかでも「学生受け持ち患者の安全・安楽を確保する」については第1ラウンドから第3ラウンドまで全て、回答者全員が、不可欠であると回答した。この他に「学生が実施したケアの不足を補う」、「実習において援助すべきケアの手本を示す」、「看護師としての役割モデルとなる」、「学生の想いを受け止める」などが80%以上の項目であった。

一方で、不可欠であるという回答が80%未満になったのは12項目であった。「学生の能力や準備に応じた指導を行う」、「ケアの根拠を説明する」、「学生のアセスメント・評価内容を確認し助言する」、「学生同士の協力関係を促進する」、「予習課題を提示する」、「関連文献の活用を促す」などがその項目である。特に、「予習課題を提示する」と「関連文献の活用を促す」は、この実習指導者役割を示す58項目の中で最も合意率が低い項目であった。

これら2項目と「学生同士の協力関係を促進する」について、不可欠であると回答しなかった理由を第2ラウンド時に質問した。その結果、表4に示すように、いずれも教員の役割だからとの回答が多かった(74.4~86.4%)。

### (4) 病棟スタッフとの連携

病棟スタッフとの連携は、学生指導に関わる病棟スタッフと実習指導者との連携に関するものであり8項目から成る。その8項目について、参加者の80%以上が不可欠である



と回答したのは、「実習目的・目標についてのスタッフの理解を促進する」、「学生受け持ち患者についての情報をスタッフと共有する」、「学生指導に関してスタッフを支援する」などの5項目であった。

一方で、不可欠であるという回答が80%未満になったのは、「学生の手本となる看護実践ができるようにスタッフを動機づける」、「学生の学習状況をスタッフと共有する」、「学生が立案した看護計画をスタッフに継続させる」の3項目であった。

「学生の学習状況をスタッフと共有する」と「学生が立案した看護計画をスタッフに継続させる」について、不可欠であると回答しなかった理由を第2ラウンド時に質問した。その結果、表4示すように「学生の学習状況をスタッフと共有する」については、実習指導者がその役割を果たさなくても実習に支障が無いとの回答が54.5%、実習指導者に期待したいが現実的に難しいとの回答が45.5%であった。「学生が立案した看護計画をスタッフに継続させる」については、実習指導者に期待したいが現実的に難しいからとの回答が57.9%、継続する必要は無いからとの回答が42.1%であった。

#### (5) 教員との連携

教員との連携は9項目から成る。その9項目について、参加者の80%以上が不可欠であると回答したのは5項目であった。なかでも「実習指導方針について確認する」は第1ラウンドから第3ラウンドまで全て、回答者全員が不可欠であると回答した。この他には、「実習における自分と教員の役割について確認・調整する」、「実習調整会議（学校-病院）に参加する」などであった。

一方で、不可欠であるという回答が80%未満になったのは4項目であり、「学生の成績評価を行う；アセスメント・看護計画」、「学生の成績評価を行う；ケア技術」、「学生の成績評価を行う；実習態度」の成績評価に関する項目と「学生の実習目標到達度を把握する」であった。

「学生の成績評価を行う；アセスメント・看護計画」、「学生の成績評価を行う；ケア技術」、「学生の成績評価を行う；実習態度」の3項目について、不可欠であると回答しなかった理由を第2ラウンド時に質問した。いずれも教員の役割だからとの回答が多かった（81.3～90.9%）。

### 3) 実習指導者に役割を果たす余裕が無くなった場合の役割（追加質問の結果）

第3ラウンドにおいて、実習指導者の役割を示す58項目について、「もしも、実習指導者に役割を果たす余裕が無くなった場合、どのように考えますか」との質問を併せて尋ね

た。回答は、不可欠である・どちらともいえない・無くてもよい、の三肢択一で求めた。

その結果、表3の右欄に示すように全ての項目において、不可欠であるとの回答が有意に減少した。この質問に対して、参加者の80%以上が不可欠であると回答したのは31項目のうち9項目となった（表5参照）。

カテゴリー【実習指導の準備】では、「実習目的・目標や進め方を確認しておく」、「実習目的に適した患者を選定する/しておく」、「患者に実習協力への説明を行い同意を得る/得ておく」の3項目が80%以上となった。カテゴリー【実習の受け入れ準備】では、「学生の記録場所やカンファレンス場所を確保する」の項目のみが80%以上となった。カテゴリー【学生指導】では、「学生受け持ち患者の安全・安楽を確保する」、「学生が実施したケアの不足を補う」、「看護師としての役割モデルとなる」の3項目のみが80%以上となった。カテゴリー【病棟スタッフとの連携】では、全ての項目が80%未満となった。カテゴリー【教員との連携】では、「実習指導方針について確認する」、実習における自分と教員の役割について確認・調整する」の2項目のみが80%以上となった。

#### 4) 実習指導者が役割を果たすために重要な教員としての支援

第3ラウンドの際に、「不可欠だと考える臨地実習指導者の役割を確実に果たしてもらうために、教員はどのように関わることが重要だと思いますか」と、「臨地実習指導者に役割を果たす余裕が無くなった場合、教員はどのように関わることが重要だと思いますか」の質問を併せて尋ねた。表6に示すように、前者の質問に対して、指導者と連絡を密にとる（45.8%）、指導者と協働する（31.3%）との回答が多く認められ、後者の質問に対しては役割を果たせるよう支援する（56.3%）との回答が多かった。

## VII. 考察

実習指導者に期待される役割を明らかにすることを目的にデルファイ法を用いた。

第1ラウンドに参加した67名のうち最終ラウンドまで参加した者は48名（71.6%）であり、途中ラウンドでの辞退者は19名（28.4%）にとどまった。特に、第2ラウンド第3ラウンドの回収率は85%以上となり、回収率における問題は無かったと考える。さらに、本研究では3つの方法で専門家を選定したが、調査に参加した対象の構成に偏りは無かったと考えられ、かつ、対象の背景からエキスパートパネルとしての専門性についても妥当であったと考える。

今回得られた結果を基に、実習指導者に期待される不可欠な役割、および、教員による実習指導者の支援について検討する。

## 1. 実習指導者に期待される不可欠な役割

実習指導に関連する書籍や文献から抽出した209項目を分類・整理し、そしてプレテスト、フォーカスグループインタビュー結果<sup>30)</sup>を加えて再検討してまとめられた58項目の実習指導者役割のうち、デルファイ法によるラウンドを経て、31項目についてコンセンサスを得ることができた。実習指導者に期待される不可欠な役割は、文献や書籍などで従来から示されている、実習目的・目標の確認や患者の安全・安楽の確保などの他に、本研究によって、実習病棟の雰囲気作り、学生の学びの機会をできるだけ確保する、ケアの効果や看護の素晴らしさを実感できるように導くという3項目が新たに示された。

以下にカテゴリー毎にその実習指導者としての特徴的な役割について考察する。

### 1) 実習指導の準備

実習指導者自身が行う準備に関して、実習目的・目標の確認や学生が実施する技術の確認、そして学生が受け持つ患者の選定と同意を取得する役割が不可欠な役割としてコンセンサスが得られた。しかし、「都道府県保健婦助産婦看護婦実習指導者講習会実施要綱(厚生省通知)」における教授内容に定められている実習指導案の立案は、今回の調査では実習指導者の役割であるとの合意に達しなかった。合意に達しなかった理由は、今回行った追加質問の結果から、実習指導者が指導案を立案することは難しいとの認識や、指導案の立案は教員の役割だとの認識によるものと推察された。

実習指導者は、実習指導者講習会において教授されているために、指導案の立案を自身の役割だと認識している可能性があると考えられる。しかし、実習指導案の立案が実習指導者の役割として不可欠であると考えられる専門家は多くはないという現実が明らかになった。

### 2) 実習の受け入れ準備

実習を受け入れるための環境整備に関して、学生が使用する場所や物品の整備に加えて実習病棟の雰囲気作りも不可欠な役割としてコンセンサスが得られた。この実習病棟の雰囲気作りは関連文献には認められなかった役割であり、実習指導を担当している看護教員を対象とした調査結果<sup>30)</sup>にて抽出された役割である。

一方で、病棟内のケア技術を統一する役割も同様に、本調査に先立って実施した調査結果<sup>30)</sup>から抽出された項目であったが、これは合意に達しなかった。その理由は、追加質問の結果から、ケア技術を統一する役割や病棟の業務基準等の整備を行う役割は病棟管理者の役割だとの認識によるものだと推察された。これらは、野崎らの調査結果<sup>6)</sup>と同様であ

った。

### 3) 学生指導

学生に直接的に指導する役割に関して、患者の安全・安楽を確保する役割について不可欠な役割としてコンセンサスが得られた。学生が受け持つ患者は、学生の実習時間の間、主に学生が実施する看護ケアを受けることになる。そのことで、患者に提供する医療の質が低下することを防ぐ役割が求められている。また、看護師としての役割モデルになることのように看護師を志向する学生を動機づける役割や、学生の想いを受け止めることや学びの機会を確保することのような学生の学習意欲を高める役割についてコンセンサスが得られた。

一方、予習課題の提示や、ケアの根拠を説明すること、関連文献の活用を促すことのような学生の知識習得やアセスメントに関わる役割は不可欠な役割として合意には達しなかった。その理由は、追加質問の結果から、教員の役割であり実習指導者以外の役割だとの認識によるものと推察された。

### 4) 病棟スタッフとの連携

実習指導者は複数の学生の指導を担当するため、ケアを実施する場面の指導について、病棟スタッフに補助を依頼する場合がある。スタッフが行う学生指導を確認し、調整し、支援する役割が期待されていた。しかし、学生の学習状況をスタッフと共有することについては、合意には達しなかった。スタッフと共有しなくても実習に支障が無いとの認識によるものと推察された。

これらから、病棟スタッフはあくまで実習指導者役割の一部を手助けする立場であり、実習指導者と共に学生を指導する者としては認識されていないこともうかがえた。また、学生が立案した看護計画をスタッフに継続させる役割も、合意に達しなかった。その理由は、追加質問の結果から、継続させることが現実的に難しいとの認識や継続する必要は無いとの認識によるものと推察された。

### 5) 教員との連携

実習指導者は、学校の実習指導方針や教員と実習指導者相互の役割について確認することが不可欠な役割として期待されていた。しかし、学生の成績を評価することについては、合意が得られなかった。これは、追加質問の結果から、教員の役割だとの認識によるもの

だと推察された。

成績評価については、先に述べた実習指導者講習会において、科目名「実習指導の評価」として15時間をかけて実習指導の評価の意義と方法が教育されている。学生の成績を評価するという実習指導者の役割は、パイロット調査の結果<sup>31)</sup>において専門学校に所属する教員が、大学教員と比較して有意に実習指導者に求める役割であった。この結果は、教員の実習指導体制が影響を与えており、実習病棟に教員の常駐が難しい指導体制の場合に実習指導者に成績評価の役割を期待すると考える。教員の実習指導体制以外に、実習指導者講習会において成績評価について教育されていることも、教員が実習指導者の役割として期待する背景にあると推測する。

看護教員が実習指導者に成績評価を行う役割を期待する一方で、実習指導者は成績評価を教員に任せたいと考えているという野崎ら<sup>6)</sup>の報告がある。

このことから、学生の成績を評価する役割について、専門家の認識そして実習指導者の意向と、学生指導を担う看護教員（特に専門学校教員）との認識の違いが示された。成績評価を誰が担うべきかについては、今後も継続して検討していく必要があると考える。

## 2. 状況の変化と実習指導者に期待される中核的な役割

実習指導者が指導を行う臨床現場は、環境の変化が起りやすく複雑で予測不能な状況にある。今回コンセンサスが得られた31項目の役割は、どのような状況であっても常に実習指導者が果たすべき役割だと言えるだろうか。その検討のために、「もしも、実習指導者に役割を果たす余裕が無くなった場合、どのように考えますか」と、患者の急変や想定外の状況などで実習指導者が指導を行う状況が厳しくなったことを想定した質問を第3ラウンドに追加した。その結果、実習指導者に期待する不可欠な役割は31項目から9項目に絞られた。これら9項目は、どのような状況においても実習指導者役割として決して欠くことのできない、回避不能な中核的な実習指導者の役割だと考えられる。

このことから、実習指導者の不可欠な役割は、平常時と状況が厳しい時という2つのフェーズで差があり、例えば、実習指導者の業務調整が特に困難な場合や病棟が非常に多忙を極める状況であっても、回避不能な中核的な役割があることを示唆するものとする。

## 3. 教員による実習指導者への支援

実習指導者が期待される役割を確実に果たすためには、実習指導者と教員との連絡を密にし、協働することが重要であり、そのための働きかけは教員が行うことが示唆された。つま

り、実習指導者が役割を果たすには、実習指導者に実習指導を一任するのではなく、教員が  
いかに連携を促進できるのか、いかに協働するため活動が行えるのかが鍵になっていると考  
える。

また、本研究結果から、実習指導者の業務調整が特に困難な場合や病棟が非常に多忙な状  
況であっても、実習指導者には回避不能な中核的な役割があることも示された。この回避不  
能な中核的な役割は、教員では代行しえない役割だと言えるだろう。教員は、実習指導者  
がどのような状況で実習指導を行っているかを見極めるの必要があり、その上で、状況に  
応じて実習指導者の役割の一部を代行し、また、実習指導者が回避不能な役割を担える  
ように支援する必要がある。この支援は、実習指導者への働きかけのみならず、病棟  
管理者や看護部への働きかけも必要だと考える。

## VIII. 研究の限界と今後の課題

本研究により、臨地実習指導者への役割期待が明らかになった。ただし、本研究の結果  
は専門家の認識に基づく役割期待であり、学生指導の実務を担っている現場の教員や  
実習指導者には全てが受け入れられるとは限らないだろう。実習指導計画の立案を行  
う役割や実習成績を評価する役割のように、これまで文献等で示されてきた役割との  
違いがあったことから、本研究において明らかになった実習指導者に対する役割期待  
と実際の実習指導者の行動とのすり合わせを行う必要があると考える。

今回明らかになった役割期待を基にして実習指導者を対象とした調査を行い、実習  
指導者自身が役割をどのように認識しているかを探求する計画である。本研究結果と  
実習指導者自身の認識を合わせて実際的な実習指導者の役割を探求していくことが  
今後の課題である。

また、医療現場の状況や看護教育政策の変化に伴い、実習指導者に期待される  
役割は変化していく可能性がある。本研究結果および引き続き探求する実習指導  
者の役割を基盤にして、時代に則した看護教育の目標に叶った役割か否かの継続  
的な検討を要するであろう。

## IX. 看護教育への示唆

本研究で明らかになった実習指導者の役割は、実習指導者としてどのような  
役割を期待されているのかを実習指導者自身が確認する目安としてのガイド  
になり得ると考える。ガイドとして役割を確認することで、複雑かつ予測が  
難しい臨床現場において学生指導を担うことによる負担感や困難感の軽減  
方法を検討することが可能になると考える。

看護教育機関には、機会があれば今回の研究成果を参考に、教員が担うべき  
役割と実習指導者に期待する役割について見直していただければ幸いである。  
特に、成績評価を実習指導

者の役割とするのかどうかについては意見が分かれる点である。実習施設との実習指導方法に関する調整を行う会議の際に、今回明らかになった実習指導者役割が具体的な指導内容や方法の検討材料として活用できると考える。

実習指導者が期待される役割を確実に果たすためには、教員と実習指導者との連携が重要であることが本研究から示唆された。教員がイニシアチブを取り実習指導者との連携が促進するような働きかけを行う事で、より効果的に実習目標の達成につながると期待する。

## X. 結論

本研究より、学生が実習目標に到達するために実習指導者に期待される不可欠な役割として、【実習指導の準備】【実習の受け入れ準備】【学生指導】【病棟スタッフとの連携】【教員との連携】の5つのカテゴリから成る31項目の役割を明らかにすることができた。加えて、実習指導者の不可欠な役割は、平常時と状況が厳しい時の二つのフェーズによって異なることが明らかになった。また、実習指導者が役割を果たすには教員との連携や協働が重要であることが明らかになった。

今後は本研究結果を基盤として、実習指導者が自身の役割をどのように認識しているのかを明らかにすると共に、期待される役割を実習指導者が果たすことの困難とその支援策について、実習指導者および教員を対象としてさらに探求していく計画である。

## 謝辞

本調査に快く協力をしてくださった参加者の皆さま、都道府県看護協会担当者、厚生労働省地方局担当者、看護教育機関の皆さまに深く感謝いたします。指導教官である太田勝正教授には、本研究に取り組む機会を与えていただき、研究の遂行に際して終始温かく的確に導いて下さったことを深く感謝申し上げます。また、ご助言をいただきました奈良間美保教授、山内豊明教授に感謝申し上げます。最後に、精神的に支え続けてくれた家族に感謝します。本研究は科学研究費補助金（基盤C；課題番号 21592728）の助成を受けて実施した。

## 文献リスト

1. 近田敬子, 長田慶子, 堀尾加代子, 他: 看護における臨床教育の方法に関する検討-指導上困難を感じている事柄とのかかわり方の実態から-, 兵庫県立看護大学紀要, 3, 107-116, 1996.
2. 平河勝美, 栗田桂子, 鳥居芳江, 他: 臨床実習指導に関する看護婦の意識の研究-困っている現象とよかったと思っている現象の意識構造の比較にみる課題-, *Quality Nursing*, 4(7), 51-58, 1998.
3. 三村博美, 斉藤好子: 臨床実習指導者のストレスに関する研究-A病院における指導者の実態調査から-, *三重看護学誌*, 3(2), 59-68, 2001.
4. 細田泰子, 山口明子: 実習指導者の看護学実習における指導上の困難とその関連要因, *日本看護研究学会雑誌*, 27(2), 67-75, 2004.
5. 福井美貴, 末安民生, 野末聖香: 精神看護学における臨床実習指導者の抱える困難, *日本精神保健看護学会誌*, 14(1), 88-97, 2005.
6. 野崎真奈美, 遠藤英子: 基礎看護学実習における教員と臨床指導者の連携のあり方-お互いに期待する役割の分析-, *東邦大学看護研究会誌*, 4, 11-20, 2007.
7. Gaberson, K. B., Oermann, M. H.: *Clinical teaching strategies in nursing*, 54-57, 2007.
8. Stokes, L. G., Kost, G. C.: *Teaching in the clinical setting*, 293-296, 2009.
9. Haas, B. K., Deardorff, K. U., Klotz, L., Coleman, J., Witt, A. D.: *Creating a collaborative partnership between academia and service*, *Journal of Nursing Education*, 41(12), 518-523, 2002.
10. Paton, B., Isherwood, R. T., Thirsk, L.: *Preceptors Matter: An Evolving Framework*, *Journal of Nursing Education*, 48(4), 213-216, 2009.
11. Itano, K. J., Warren, J. J., Ishida, D. N.: *A Comparison of role conceptions and role deprivation of baccalaureate students in nursing participating in a preceptorship or a traditional clinical program*, *Journal of Nursing Education*, 26(2), 69-73, 1987.
12. Udulis, K. A.: *Preceptorship in undergraduate nursing education: An integrate review*, *Journal of Nursing Education*, 47(1), 20-29, 2008.
13. Oermann, M. H.: *A study of preceptor roles in clinical teaching*, *Nursing connections*, volume9. number4, 57-64, 1996.
14. Brown, S. J.: *The experiences of lecturer practitioners in clinical practice*, *Nurse Education Today*, 26, 601-608, 2006.
15. Myrick F, Yonge O.: *Preceptorship: a quintessential component of nursing education*.



- In: Oermann MH, heinrich KT (eds). Annual Review of Nursing Education. New York: Springer, 2003;91-107.
16. Yonge O, Krahn H, Trojyan L, et al: Supporting preceptors. Journal of Nurses Staff Development. 2002;18:73-79.
  17. Shimada, K., Kameda, Y., Maruyama, A., et al.: A study on the effects and improvement on clinical practicum by preceptorship, Journal of the Tsuruma HEALTH SCI. MED. KANAZAWA UNIV., 27, 23-31, 2003.
  18. 久保真由美: 臨床指導者のえがく指導者像と役割達成上の問題, 神奈川県看護教育大学校看護教育研究集録, 22, 229-234, 1997.
  19. 亀山直子, 水戸美津子: 臨地実習指導者の教育活動と学習ニーズ-2003年度東京都実習指導者研修受講者を対象とした調査-, 山梨県立看護大学紀要, 7, 2005.
  20. 松井泰子, 内田洋子, 山本加枝子, 他: 臨床実習指導者の指導意識の向上と行動化をめざして 実習指導振り返り表を活用して, 日本看護学会論文集:看護教育, 31, 6-8, 2001.
  21. Zimmerman, L., Wesfall, J.: The Development and Validation of a Scale Measuring Effective Clinical Teaching Behaviors, Journal of Nursing Education, 27 (6), 274-277, 1988.
  22. 中西啓子, 影本妙子, 林千加子, 他: Effective Clinical Teaching Behaviours (ECTB) 評価スケールを用いた看護実習指導の分析-第一報-, 川崎医療短期大学紀要, 22, 19-24, 2002.
  23. 松木光子, 宮地緑: 看護学臨地実習ハンドブック-基本的考え方とすすめ方-(改訂3版), 11-14, 金芳堂, 2003.
  24. 藤岡完治, 屋宜譜美子: 看護教員と臨地実習指導者 (第1版), 95-96, 医学書院, 2004.
  25. 西元勝子, 杉野元子: 看護臨床指導のダイナミクス (第2版), pp28-31, 医学書院, 2003.
  26. 見田宗介, 栗原彰, 田中義久: 社会学事典, 878, 弘文堂, 1988.
  27. Keeney, S., Hasson, F., Mckenna, H.: Consulting the oracle: ten lessons from using the Delphi technique in nursing research, Journal of advanced nursing, 53 (2), 205-212, 2006.
  28. Mckenna, H. P.: The Delphi technique: a worthwhile research approach for nursing?, Journal advanced nursing, 19, 1221-1225, 1994.
  29. Kennedy, H. P.: Enhancing Delphi research: method and result, Journal of advanced Nursing 45 (5), 504-511, 2004.
  30. 山田聡子, 太田勝正: 看護教員が期待する臨地実習指導者の役割-フォーカスグループイ

- インタビューに基づく検討ー, 日本看護学教育学会誌, 20(2), 1-11, 2010.
31. 山田聡子, 太田勝正: 看護教員が重要だと考える臨地実習指導者の役割ー看護系大学と看護専門学校と比較ー, 第20回日本看護学教育学会ポスターセッション, 大阪市, 2010.

図表

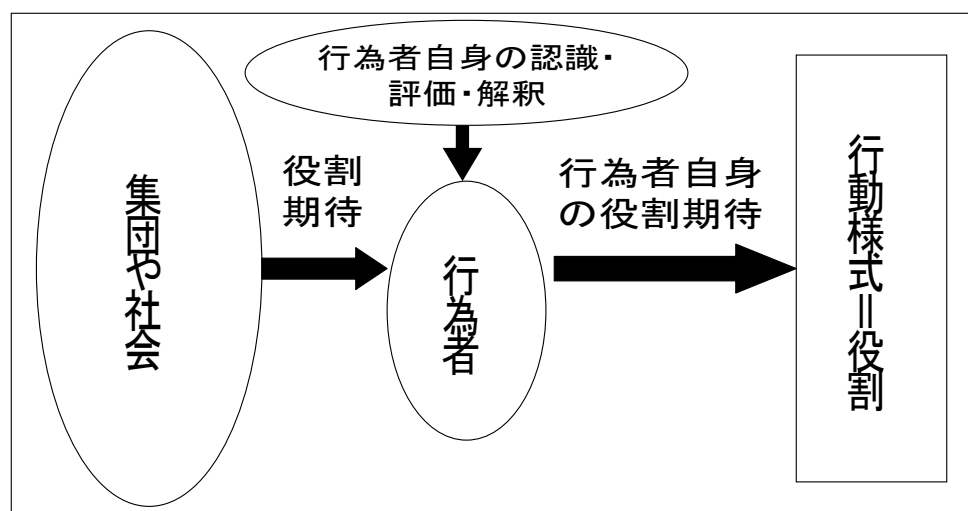


図1：一般的な役割(role)

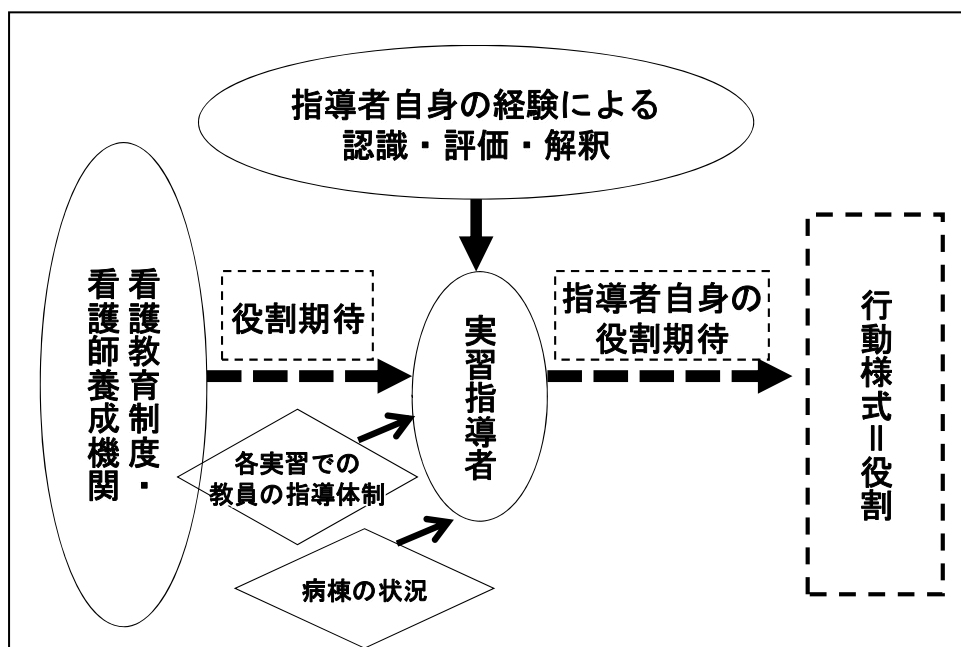


図2 実習指導者の役割

表1 実習指導者役割項目の整理・分類経過表

文献から抽出し整理・分類した56項目の一覧	フォーカスグループインタビュー後に整理・分類した58項目の一覧
<p><b>I. 学生受け入れ準備</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習目的・目標を確認する</li> <li>2. 受け入れ学生の年齢に応じた特性の把握に努める</li> <li>3. 学生の既習得単位を確認する</li> <li>4. 学生がこれまでに経験した実習内容を確認する</li> <li>5. 学生に実施させる技術を確認する</li> <li>6. 受け入れ病棟として、実習指導案を立案する</li> <li>7. 実習目的に適した患者を選定する</li> <li>8. 指導のための自身の勤務体制を調整する</li> <li>9. 病棟の看護記録類を整える</li> <li>10. 病棟の業務基準・手順を整える</li> <li>11. 学生が使用する物品を確認・整備する</li> <li>12. 学生の記録場所やカンファレンス場所を確保する</li> <li>13. 病棟オリエンテーションプログラムを作成する</li> <li>14. 病棟オリエンテーションの準備をする</li> </ol>	<p><b>I. 実習指導の準備</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習目的・目標や進め方を確認しておく</li> <li>2. 受け入れ学生の年齢に応じた特性を把握しておく</li> <li>3. 臨地実習における看護学生の特徴を把握しておく</li> <li>4. 学生の既習得単位を確認しておく</li> <li>5. 学生がこれまでに経験した実習内容を確認しておく</li> <li>6. 学生に実施させるべき技術項目を確認しておく</li> <li>7. 受け入れ病棟として、実習指導案を立案しておく</li> <li>8. 実習目的に適した患者を選定する/しておく</li> <li>9. 患者に実習協力への説明を行い同意を得る/得ておく</li> </ol> <p><b>II. 実習の受け入れ準備</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10. 実習期間中、指導に専念できる勤務体制・業務内容を調整しておく</li> <li>11. 病棟の業務基準・手順・看護記録類を整えておく</li> <li>12. 病棟内のケア技術を統一調整する</li> <li>13. 学生が使用する物品を確認・整備する</li> <li>14. 学生の記録場所やカンファレンス場所を確保する</li> <li>15. 学生を受け入れる病棟の雰囲気づくり</li> </ol>
<p><b>II. 学生指導</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>15. 病棟オリエンテーションを実施する</li> <li>16. 情報収集を支援する</li> <li>17. 学生受け持ち患者の状態を把握する</li> <li>18. 学生の知識と実践を統合する</li> <li>19. 実習記録の内容を確認し助言する</li> <li>20. 学生が立案した看護計画を修正する</li> <li>21. 援助すべきケアの手本を示す</li> <li>22. 実施するケアについて事前に手順や必要性を確認する</li> <li>23. 学生が実施するケアを見守る</li> <li>24. 学生受け持ち患者の安全・安楽を確保する</li> <li>25. 学生が実施したケアの不足を補う</li> <li>26. 実施したケアについて学生と共に振り返る</li> <li>27. 関連文献の活用を促す</li> <li>28. 学生の日々の予習状況を把握する</li> <li>29. 予習課題を提示する</li> <li>30. 学生の自己評価を促す</li> <li>31. 学生カンファレンスに参加し助言する</li> <li>32. 学生の話に傾聴する</li> <li>33. 学生の想いを受け止める</li> <li>34. 学習意欲の維持・向上に努める</li> <li>35. 役割モデルとなる</li> <li>36. 専門職としての看護を目指せるように導く</li> <li>37. 看護の役割を理解させる</li> </ol>	<p><b>III. 学生指導</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 病棟オリエンテーションを担当する</li> <li>17. 情報収集を支援する</li> <li>18. 学生のアセスメント・評価内容を確認し助言する</li> <li>19. 学生が立案した看護計画を確認し調整する</li> <li>20. 援助すべきケアの手本を示す</li> <li>21. ケアの根拠を説明する</li> <li>22. 実施するケアについて事前に手順や必要性を確認する</li> <li>23. 学生が実施するケアを見守る</li> <li>24. 学生受け持ち患者の安全・安楽を確保する</li> <li>25. 学生が実施したケアの不足を補う</li> <li>26. 実施したケアについて学生と共に振り返る</li> <li>27. 学生の学びの機会をできるだけ確保する</li> <li>28. 関連文献の活用を促す</li> <li>29. 予習課題を提示する</li> <li>30. 学生の自己評価を促す</li> <li>31. 学生カンファレンスに参加し助言する</li> <li>32. 学生の能力や準備に応じた指導を行う</li> <li>33. 学生の話に傾聴する</li> <li>34. 学生の想いを受け止める</li> <li>35. 学生の考えを引き出す</li> <li>36. 学習意欲の維持・向上に努める</li> <li>37. 役割モデルとなる</li> <li>38. 専門職としての看護を目指せるように導く</li> <li>39. 看護の役割を理解させる</li> <li>40. ケアの効果や看護の素晴らしさを実感できる場面をみせる</li> <li>41. 学生同士の協力関係を促進する</li> </ol>
<p><b>III. 関係性の調整</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>38. 学生同士の協力関係を促進する</li> <li>39. 実習協力への説明を行い同意を得る</li> <li>40. 学生－患者関係を調整する</li> <li>41. 学生－スタッフ関係を調整する</li> </ol>	
<p><b>IV. 病棟スタッフとの連携</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>42. 実習に対するスタッフの理解を進める</li> <li>43. 学生の学習状況をスタッフと共有する</li> <li>44. スタッフの学生指導を支援する</li> <li>45. 他の実習指導者と連携する</li> <li>46. スタッフの学生指導能力の向上を図る</li> <li>47. 学生の手本となる看護実践ができるようにスタッフを動機づける</li> <li>48. 学校からの意見・要望を伝える</li> <li>49. 学生が立案した看護計画を実習終了後も継続させる</li> </ol>	<p><b>IV. 病棟スタッフとの連携</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>42. 実習目的・目標についてのスタッフの理解を促進する</li> <li>43. 学生の学習状況や指導状況を他の実習指導者と共有する</li> <li>44. 学生の学習状況をスタッフと共有する</li> <li>45. 学生受け持ち患者についての情報をスタッフと共有する</li> <li>46. スタッフによる学生指導の確認と調整</li> <li>47. 学生指導に関してスタッフを支援する</li> <li>48. 学生の手本となる看護実践ができるようにスタッフを動機づける</li> <li>49. 学生が立案した看護計画をスタッフに継続させる</li> </ol>
<p><b>V. 教員との連携</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>50. 実習調整会議(学校－指導者)に参加する</li> <li>51. 実習指導における自分の役割を教員と調整する</li> <li>52. 実習指導方針を確認する</li> <li>53. 学生の学習状況を教員と日々共有する</li> <li>54. 実習終了後の実習記録を確認する</li> <li>55. 学生の実習について成績評価を行う</li> <li>56. 学生が実施したケア技術について成績評価を行う</li> </ol>	<p><b>V. 教員との連携</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>50. 実習調整会議(学校－病院)に参加する</li> <li>51. 実習における自分と教員の役割についての確認と調整</li> <li>52. 実習指導方針についての理解と確認</li> <li>53. 学生の学習状況を教員と日々共有する</li> <li>54. 患者からのフィードバックを教員と共有する</li> <li>55. 学生の実習目標到達度を把握する</li> <li>56. 学生の成績評価;アセスメント・看護計画</li> <li>57. 学生の成績評価;ケア技術</li> <li>58. 学生の成績評価;実習態度</li> </ol>

■ フォーカスグループインタビューにて新たに抽出した項目

**表2 参加者背景** (第1・3ラウンド) (%)

	第1ラウンド	第3ラウンド
<b>参加者数</b>	67	48
<b>性別</b>		
女性	67(100.0)	48(100.0)
<b>年齢</b>		
平均	50.9±6.7	50.9±6.4
<b>教員経験年数(通算)</b>		
平均	16.5±7.3	17.5±7.2
<b>看護教員経験年数</b>		
平均	16.0±7.2	16.7±7.2
<b>臨床経験年数</b>		
平均	9.6±5.4	9.5±5.1
<b>所属</b>		
看護系大学	37(55.2)	24(50.0)
専門学校	21(31.3)	17(35.4)
看護系短期大学	3(4.5)	3(6.3)
その他(医療機関、元大学、等)	5(7.5)	4(8.3)
NA	1(1.5)	0(0.0)
<b>学歴</b>		
看護系以外大学院	26(38.8)	20(41.7)
看護系大学院	22(32.8)	13(27.1)
看護専門学校	8(11.9)	7(14.6)
看護系以外大学	9(13.4)	6(12.5)
看護系大学	1(1.5)	1(2.1)
看護系短期大学	1(1.5)	1(2.1)
<b>臨地実習指導者経験</b>		
あり	38(56.7)	29(60.4)
なし	28(41.8)	18(37.5)
NA	1(1.5)	1(2.1)
<b>臨地実習指導者講習会の受講経験</b>		
あり	14(20.9)	9(18.8)
なし	52(77.6)	39(81.3)
NA	1(1.5)	0(0.0)
<b>教員としての実習指導経験</b>		
あり	67(100.0)	48(100.0)

表3 臨地実習指導者の役割

臨地実習指導者の役割	第1ラウンド (N=67)		第2ラウンド (N=55)		第3ラウンド (N=48)		追加質問の結果(N=43)		
	n	%	n	%	n	%	n	%	p
<b>実習指導の準備</b>									
実習目的・目標や進め方を確認しておく	67	100.0	55	100.0	48	100.0	37	86.0	0.034 *
実習目的に適した患者を選定する/しておく	62	92.5	55	100.0	48	100.0	38	88.4	0.025 *
患者に実習協力への説明を行い同意を得る/得ておく	65	97.0	54	98.2	47	97.9	38	88.4	0.046 *
学生に実施させるべき技術項目を確認しておく	54	80.6	48	87.3	40	83.3	23	53.5	0.000 **
看護学生全般の今日的な特徴を把握しておく	47	70.1	41	74.5	33	68.8	13	30.2	0.000 **
学生がどのような科目を習ってきたかを確認しておく	49	73.1	43	78.2	33	68.8	14	32.6	0.000 **
学生がこれまでに経験した実習内容を確認しておく	51	76.1	39	70.9	33	68.8	10	23.3	0.000 **
学年毎の受け入れ学生の特性を把握しておく	37	55.2	26	47.3	19	39.6	6	14.0	0.000 **
受け入れ病棟として、実習指導案を立案しておく	28	41.8	23	41.8	14	29.2	5	11.6	0.000 **
<b>実習の受け入れ準備</b>									
学生の記録場所やカンファレンス場所を確保する	63	94.0	55	100.0	46	95.8	37	86.0	0.025 *
学生を受け入れる病棟の雰囲気づくり	65	97.0	54	98.2	44	91.7	31	72.1	0.005 **
学生が使用する物品を確認・整備する	55	82.1	50	90.9	43	89.6	31	72.1	0.001 **
実習期間中、指導に専念できる勤務体制・業務内容を調整しておく	49	73.1	41	74.5	35	72.9	12	27.9	0.000 **
病棟の業務基準・手順・看護記録類を整えておく	36	53.7	27	49.1	24	50.0	9	20.9	0.000 **
病棟内のケア技術を統一・調整する	19	28.4	10	18.2	6	12.5	2	4.7	0.000 **
<b>学生指導</b>									
学生受け持ち患者の安全・安楽を確保する	67	100.0	55	100.0	48	100.0	39	90.7	0.046 *
学生が実施したケアの不足を補う	64	95.5	55	100.0	47	97.9	35	81.4	0.011 *
実習において援助すべきケアの手本を示す	60	89.6	52	94.5	46	95.8	29	67.4	0.001 **
看護師としての役割モデルとなる	66	98.5	53	96.4	46	95.8	37	86.0	0.034 **
学生の話に耳を傾ける	62	92.5	54	98.2	46	95.8	28	65.1	0.000 **
学生の想いを受け止める	59	88.1	53	96.4	45	93.8	26	60.5	0.000 **
ケアの効果や看護の素晴らしさを実感できるように導く	61	91.0	51	92.7	45	93.8	27	62.8	0.000 **
病棟オリエンテーションを担当する	56	83.6	48	87.3	44	91.7	18	41.9	0.000 **
学生が実施するケアを見守る	64	95.5	53	96.4	44	91.7	28	65.1	0.000 **
学生の学びの機会をできるだけ確保する	63	94.0	53	96.4	44	91.7	19	44.2	0.000 **
学生カンファレンスに参加し助言する	62	92.5	51	92.7	43	89.6	22	51.2	0.000 **
実施するケアについて事前に手順や必要性を確認する	57	85.1	48	87.3	42	87.5	24	55.8	0.000 **
実施したケアについて学生と共に振り返る	58	86.6	48	87.3	41	85.4	15	34.9	0.000 **
情報収集を支援する	60	89.6	50	90.9	40	83.3	18	41.9	0.000 **
学生の能力や準備に応じた指導を行う	54	80.6	46	83.6	37	77.1	17	39.5	0.000 **
学生の考えを引き出す	52	77.6	46	83.6	37	77.1	14	32.6	0.000 **
ケアの根拠を説明する	52	77.6	42	76.4	37	77.1	20	46.5	0.000 **
学習意欲の維持・向上に努める	51	76.1	42	76.4	32	66.7	9	20.9	0.000 **
看護の役割を理解させる	48	71.6	38	69.1	32	66.7	14	32.6	0.000 **
専門職としての看護を目指せるように導く	45	67.2	35	63.6	31	64.6	14	32.6	0.000 **
学生が立案した看護計画を確認し調整する	46	68.7	34	61.8	26	54.2	11	25.6	0.000 **
学生のアセスメント・評価内容を確認し助言する	42	62.7	30	54.5	24	50.0	8	18.6	0.000 **
学生に日々の振り返りを促す	44	65.7	29	52.7	24	50.0	8	18.6	0.000 **
学生同士の協力関係を促進する	22	32.8	12	21.8	8	16.7	3	7.0	0.000 **
関連文献の活用を促す	13	19.4	6	10.9	4	8.3	1	2.3	0.000 **
予習課題を提示する	11	16.4	5	9.1	2	4.2	0	0.0	0.000 **
<b>病棟スタッフとの連携</b>									
実習目的・目標についてのスタッフの理解を促進する	62	92.5	53	96.4	45	93.8	25	58.1	0.000 **
学生受け持ち患者についての情報をスタッフと共有する	61	91.0	52	94.5	45	93.8	31	72.1	0.003 **
学生に対するスタッフの指導状況を確認・調整する	60	89.6	52	94.5	45	93.8	28	65.1	0.000 **
学生指導に関してスタッフを支援する	62	92.5	52	94.5	45	93.8	24	55.8	0.000 **
学生の学習状況や指導状況を他の実習指導者と共有する	60	89.6	49	89.1	43	89.6	24	55.8	0.000 **
学生の手本となる看護実践ができるようにスタッフを動機づける	53	79.1	40	72.7	38	79.2	17	39.5	0.000 **
学生の学習状況をスタッフと共有する	38	56.7	27	49.1	25	52.1	11	25.6	0.000 **
学生が立案した看護計画をスタッフに継続させる	19	28.4	9	16.4	8	16.7	2	4.7	0.000 **
<b>教員との連携</b>									
実習指導方針について確認する	67	100.0	55	100.0	48	100.0	36	83.7	0.014 *
実習における自分と教員の役割について確認・調整する	67	100.0	54	98.2	48	100.0	36	83.7	0.011 *
実習調整会議(学校-病院)に参加する	63	94.0	54	98.2	48	100.0	34	79.1	0.006 **
患者の反応や評価を教員と共有する	62	92.5	50	90.9	43	89.6	22	51.2	0.000 **
学生の学習状況を教員と日々共有する	59	88.1	50	90.9	41	85.4	22	51.2	0.000 **
学生の実習目標到達度を把握する	54	80.6	46	83.6	35	72.9	16	37.2	0.000 **
学生の成績評価を行う; ケア技術	31	46.3	22	40.0	20	41.7	11	25.6	0.000 **
学生の成績評価を行う; 実習態度	30	44.8	19	34.5	20	41.7	10	23.3	0.000 **
学生の成績評価を行う; アセスメント・看護計画	22	32.8	14	25.5	10	20.8	5	11.6	0.000 **

Wilcoxon符号付順位検定 \*p<0.05 \*\*p<0.01

表4 第1ラウンドで「不可欠」が6割を切った項目とその理由

臨地実習指導者役割	実習に支障が無い*	指導者以外の役割	現実的に難しい <sup>§</sup>
	n(%)	n(%)	n(%)
<b>実習指導の準備</b>			
学年毎の受け入れ学生の特性を把握しておく	12(48.0)		13(52.0)
受け入れ病棟として実習指導案を立案しておく	6(21.4)	9(32.1) <sup>¶</sup>	13(46.4)
<b>実習の受け入れ準備</b>			
病棟の業務基準・手順・看護記録類を整えておく	9(42.9)	10(47.6) <sup>†</sup>	2(9.5)
病棟内のケア技術を統一・調整する	16(44.4)	11(30.6) <sup>†</sup>	9(25.0)
<b>学生指導</b>			
関連文献の活用を促す		32(74.4) <sup>¶</sup>	11(25.6)
予習課題を提示する		38(86.4) <sup>¶</sup>	6(13.6)
学生同士の協力関係を促進する		31(83.8) <sup>¶</sup>	6(16.2)
<b>病棟スタッフとの連携</b>			
学生の学習状況をスタッフと共有する	12(54.5)		10(45.5)
学生が立案した看護計画をスタッフに継続させる	16(42.1) <sup>‡</sup>		22(57.9)
<b>教員との連携</b>			
学生の成績評価を行う: アセスメント・看護計画		32(86.5) <sup>¶</sup>	5(13.5)
学生の成績評価を行う: ケア技術		26(81.3) <sup>¶</sup>	6(18.7)
学生の成績評価を行う: 実習態度		30(90.9) <sup>¶</sup>	3(9.1)

第2ラウンドで上記の役割項目に「どちらともいえない」「無くてもよい」と回答した者に理由を尋ねた(N=21~37)  
 \*実習指導者とその役割を果たさなくても実習に支障がないから。  
 ‡継続する必要はないから  
 ¶教員の役割だから  
 †病棟管理者の役割だから  
 §実習指導者に期待したいが現実的に難しいから

**表5 状況が変化した場合の実習指導者の役割**

n(%)

臨地実習指導者の役割	第3ラウンド n=48	追加質問結果* n=43
<b>実習指導の準備</b>		
実習目的・目標や進め方を確認しておく	48(100.0)	37(88.1)
実習目的に適した患者を選定する/しておく	48(100.0)	38(88.4)
患者に実習協力への説明を行い同意を得る/得ておく	47(97.9)	38(88.4)
<b>実習の受け入れ準備</b>		
学生の記録場所やカンファレンス場所を確保する	46(95.6)	37(86.0)
<b>学生指導</b>		
学生受け持ち患者の安全・安楽を確保する	48(100.0)	39(90.7)
学生が実施したケアの不足を補う	47(97.9)	35(81.4)
看護師としての役割モデルとなる	46(95.8)	37(86.0)
<b>教員との連携</b>		
実習指導方針について確認する	48(100.0)	36(83.7)
実習における自分と教員の役割について確認・調整する	48(100.0)	36(83.7)

\*「もしも、実習指導者が役割を果たす余裕が無くなった場合、どのように考えますか」への回答

**表6 実習指導者が役割を果たすための教員の関わり**

N=48(%)

不可欠だと考える臨地実習指導者の役割を確実に果たしてもらうために、教員はどのように関わるのが重要だと思いますか

不可欠な役割を実習指導者に説明する	6(12.5)
実習指導者との連絡を密にとる	22(45.8)
実習指導者と協働する	15(31.3)
その他	2(4.2)
病棟責任者やスタッフの協力を得る	
看護部の理解を得る	
NA	3(6.3)
<b>臨地実習指導者に役割を果たす余裕が無くなった場合、教員はどのように関わるのが重要だと思いますか</b>	
役割を果たせるように努力を求める	0(0)
役割を果たせるように支援する	27(56.3)
あきらめて教員が代行する	7(14.6)
病棟管理者や看護部との調整を行う	9(18.8)
NA	5(10.4)

第3ラウンド時に回答を求めた